

長谷川望牧師

*詩121篇 〈都上りの歌〉

- 1 私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。
- 2 私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。
- 3 主はあなたの足をよろけさせずあなたを守る方はまどろむこともない。
- 4 見よ、イスラエルを守る方はまどろむこともなく眠ることもない。
- 5 主はあなたを守る方。主はあなたの右手をおおう陰。
- 6 昼も日があなたを打つことはなく夜も月があなたを打つことはない。
- 7 主はすべてのわざわいからあなたを守りあなたのたましいを守られる。
- 8 主はあなたを行くにも帰るにも今よりとこしえまでも守られる。

*台風19号により、10月13日の礼拝は一同でささげることができませんでしたが、それぞれの家庭でこの詩篇を読み、祈りをささげました。

イスラエルを守る方、主は、私たち一人一人をも同じように守られます。主は生きておられる方であり、一瞬たりとも居眠りをされることなく、私たちを見守ってくださいます。必要なものを備えてくださいます。

また、さまざまな災いや病気や困難から守られるだけではなく、私たちの魂をも守られます。それは、どんなことがあっても、自分ではなく、主に助けを求め、委ね、従っていく信仰を与えることによってです。

*「行くにも帰るにも」は、この詩人が都エルサレムに礼拝に行く道、帰る道を守られるというのが直接の意味ですが、主を信じるすべての者にとって「生まれてから死ぬまで」という意味にとることができます。本当の助けは天地を造られたかた、私を造られたかたから来ません。主に信頼して歩みましょう。